

**(b) 現地調査**

**a) 調査地域**

対象事業実施区域及びその周辺とした。

**b) 調査方法**

現地調査により確認された植物及び植生について、表 8-1-5-12 に示した選定根拠に基づき学術上又は希少性の観点から重要な種及び重要な群落を抽出した。

**c) 調査結果**

**(7) 重要な種**

現地調査により確認された植物種のうち、表 8-1-5-14 に示すとおり 20 種が重要な種に選定された。現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-5-15 に、確認位置は図 8-1-5-5 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-5-14 重要な種(現地調査)

No.	科名	種名	対象事業実施区域			重要な種							
			内		外	I	II	III	IV	V	VI	VII	
			変更区域										
			内	外									
1	オシダ	キヨスミヒメワラビ			●						NT		
2	ウラボシ	オシャグジデンド			●						EN		
3	サンショウモ	サンショウモ			●					VU	EN		
4	キンポウゲ	フクジュソウ			●						NT		
5	ツツラフジ	ツツラフジ	●	●	●						VU		
6	ユキノシタ	ネコノメソウ	●	●	●						NT		
7	ミカン	フユザンショウ		●							NT		
8	ジンチョウゲ	オニシバリ	●								EN		
9	ヒシ	ヒシ	●		●						NT		
10	シソ	ミゾコウジュ	●	●	●						NT	NT	
11		トウゴクシソバタツナミソウ	●		●						NT		
12	オミナエシ	ツルカノコソウ			●						NT		
13	ヒガンバナ	キツネノカミソリ			●						NT		
14	ラン	エビネ		●							NT	EN	
15		キンラン			●						VU	EN	
16		ササバギンラン	●		●							NT	
17		シュンラン	●	●	●							NT	
18		ムヨウラン			●							DD	
19		コクラン		●	●							EN	●
20		オオバノトンボソウ		●	●							NT	
合計	13科	20種	8種	7種	19種	0種	0種	0種	0種	4種	20種	1種	

注1：分類、配列等は、原則として「植物目録1987」（昭和63年、環境庁）に準拠した。

注2：重要な種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック 2011植物編」（平成24年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CE：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

表 8-1-5-15(1) 重要な種の確認状況

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	変更区域			
	内	外		
キヨスミヒメ ワラビ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
オシヤグジデ ンダ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林であった。</li> </ul>
サンショウモ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季調査において、対象事業実施区域外で2箇所合計1000個体及び225m<sup>2</sup>の生育範囲が確認された。</li> <li>・確認環境は、水田であった。</li> </ul>
フクジュソウ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所22個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、低茎草地であった。</li> </ul>
ツツラフジ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体、対象事業実施区域内で7箇所合計276m<sup>2</sup>の生育範囲（変更区域内で1箇所15m<sup>2</sup>の生育範囲）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>
ネコノメソウ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で23箇所合計6345個体及び161m<sup>2</sup>の生育範囲、対象事業実施区域内で19箇所合計2371個体及び50.15m<sup>2</sup>の生育範囲（変更区域内で8箇所合計468個体及び9m<sup>2</sup>の生育範囲）が確認された。</li> <li>・なお、事業計画の見直し前は変更区域内で10箇所合計768個体及び18m<sup>2</sup>であった（※）。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、高茎草地、低茎草地及び開放水域（流水）であった。</li> </ul>
フユザンショ ウ		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
オニシバリ	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季、早春季及び春季調査において、対象事業実施区域内で4箇所合計3個体及び16m<sup>2</sup>の生育範囲（変更区域内で4箇所合計3個体及び16m<sup>2</sup>の生育範囲）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及びその低木林であった。</li> </ul>
ヒシ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2箇所0.1ha、対象事業実施区域内で1箇所0.03ha（変更区域内で1箇所0.03ha）の生育が確認された。</li> <li>・確認環境は、開放水域（止水）であった。</li> </ul>
ミゾコウジュ	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季、早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2箇所合計103個体、対象事業実施区域内で13箇所合計2875個体（変更区域内で9箇所合計2575個体）が確認された。</li> <li>・なお、事業計画の見直し前は変更区域内で10箇所合計2675個体であった（※）。</li> <li>・確認環境は、高茎草地及び低茎草地であった。</li> </ul>

注：※について、ネコノメソウ及びミゾコウジュは、述べる環境保全措置「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」により調査計画書時（以下、当初計画）から計画の見直しを図ったことに伴い、変更区域内の確認個体数が変わっていることから、見直し前後の状況を記載している。

表 8-1-5-15(2) 重要な種の確認状況






種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	変更区域			
	内	外		
トウゴクシソ バタツナミソ ウ	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で4箇所合計38個体、対象事業実施区域内で1箇所5個体（変更区域内で1箇所5個体）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>
ツルカノコソ ウ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で6箇所合計62個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
キツネノカミ ソリ			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で6箇所合計62個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
エビネ		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域内で1箇所3個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
キンラン			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>
ササバギラン	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で6箇所合計68個体、対象事業実施区域内で1箇所3個体（変更区域内で1箇所3個体）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>
シュンラン	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季、早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で35箇所合計227個体、対象事業実施区域内で27箇所合計190個体（変更区域内で13箇所合計96個体）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>
ムヨウラン			●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所4個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林であった。</li> </ul>
コ克蘭		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で4箇所合計38個体、対象事業実施区域内で1箇所9個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>
オオバノトン ボソウ		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で2箇所合計21個体、対象事業実施区域内で3箇所21個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であった。</li> </ul>

(イ) 重要な群落

現地調査の結果、表 8-1-5-12 により選定された重要な群落は確認されなかった。一方、「その他地域特性上重要と考えられる群落」として、二次遷移が進んでよく発達した二次林に該当するコナラ群落が挙げられる。本群落は調査地域で最も広範囲に分布し、植生の調査における高木層の樹高が最大 17m と持続群落としてよく発達しており、動物等の良好な生息・生育環境になっていると考えられる。コナラ群落の分布は、図 8-1-5-3 に示したとおりである。

# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設       町村界
-  調査地域       変更区域
-  植物 重要種確認位置

## 【本図の記載種】

キヨスミヒメワラビ、オシャグジデンダ、サンショウモ、  
フクジュソウ、ツツラフジ








1:17,500

0 150 300 450 600 750  
m

図 8-1-5-5(1)  
植物 重要種確認位置

# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  植物 重要種確認位置

【本図の記載種】

ネコノメソウ








1:17,500

0 150 300 450 600 750  
m

図 8-1-5-5(2)  
植物 重要種確認位置

# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  植物 重要種確認位置

### 【本図の記載種】

フユザンショウ、オニシバリ、ヒシ、ミゾコウジュ








1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-5-5(3)  
植物 重要種確認位置

# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設       町村界
-  調査地域       変更区域
-  植物 重要種確認位置

## 【本図の記載種】

トウゴクシソバタツナミソウ、ツルカノコソウ、キツネノカミソリ、エビネ、キンラン、ササバギンラン



1:17,500






0 150 300 450 600 750  
m

図 8-1-5-5(4)  
植物 重要種確認位置



# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  植物 重要種確認位置

### 【本図の記載種】

シュンラン








1:18,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-5-5(5)  
植物 重要種確認位置

# 動植物保全の観点から 非公開

## 凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  改変区域
-  植物 重要種確認位置

### 【本図の記載種】

ムヨウラン、コ克蘭、オオパノトンボソウ



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-5-5(6)  
植物 重要種確認位置

## ⑤ その他の予測・評価に必要な事項

### (a) 広域的な植物相及び植生の状況

「小川町の歴史 別編 小川町の自然 植物編」（平成12年3月、小川町）によると、小川町内では146科1005種の維管束植物が確認されている。

### (b) 過去の植生の変遷

「第3回自然環境保全基礎調査（植生調査） 5万分の1現存植生図」（昭和58年、環境庁）によると、調査地域周辺は主にコナラ・クリ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ・ヤマツツジ群集といった木本群落が分布する樹林環境であったことが分かる。一方、「第6回・第7回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）の植生図をみると、ススキ群団（Ⅶ）が広範囲に分布しており、現況も概ね同様な環境である。この植生の変遷は、当初計画されていたゴルフ場建設に伴う工事による人為的な影響と考えられ、当時の工事により樹木が伐採され、その後植生遷移が進んで伐採跡地に草本群落等が成立したものと考えられる。

### (c) 地域住民その他の人との関わりの状況

調査地域周辺は起伏に富んだ低山地とその周囲の平地で構成されており、低山地はスギ・ヒノキ・サワラ植林の他、クリ・コナラ群集やヤマツツジ・アカマツ群集等の二次林が広範を占め、適宜人為的な管理により維持されてきた樹林環境となっている。また、平地は集落の他に水田雑草群落、畑地雑草群落等の耕作地の植物群落が大半を占めており、低山地と同様に人為的な管理等によりその自然環境が維持されており、里地里山の特徴を有する植物相が成立している。そして、調査地域内には「官ノ倉山ハイキングコース」等、これらの自然と触れ合うことのできる活動の場が整備・利用されている。

2) 予測及び評価の結果

① 工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用の影響

(a) 造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在及び太陽光パネル等の撤去・廃棄

a) 環境保全措置

事業の実施に伴う重要な種への環境影響を低減するため、表 8-1-5-16 に示す措置を講じる。

表 8-1-5-16 植物に係る環境保全措置

環境影響要因		環境保全措置の内容
工事の実施	・ 造成等の施工による一時的な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。</li> <li>・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> <li>・ 造成箇所は、速やかに転圧等を施す。</li> <li>・ 改変区域内の非パネル設置箇所にオニシバリを対象とした保全区域を設ける。</li> <li>・ 工事着手前に、オニシバリ及びミゾコウジュを、対象事業実施区域内の影響を受けない生育環境へ移植し、保全区域を設ける。</li> </ul>
土地又は工作物の存在	・ 地形の改変及び施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした植物種の生育環境を保全する。</li> <li>・ 低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する。</li> <li>・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> </ul>
土地又は工作物の存在及び供用	・ 太陽光パネル等の撤去・廃棄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> <li>・ 太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努める。</li> </ul>

## b) 予測

### (7) 予測地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

### (イ) 予測対象時期

工事の実施による植物の生育環境への影響が最大となる時期、緑地の復元が安定し、太陽光発電所の運転が定常状態の時期及び太陽光パネル等の撤去・廃棄による植物への影響が最大となる時期とした。

### (ウ) 予測手法

重要な種へ生じる直接的、間接的な環境影響の変化の程度を定量的に把握し、文献その他の資料調査及び現地調査の結果を踏まえ、文献その他の資料による類似事例の引用又は解析により予測するものとし、必要に応じて専門家等の助言を得ることとした。

また、重要な種の生育環境の減少・喪失に係る影響に関しては、表 8-1-5-17 に示すとおり、植生の改変面積及び改変率を算出し、予測資料とした。植生の改変面積及び改変率については、表 8-1-5-16 に示したとおり、「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置を採用し、調査計画書（方法書）時（以下、当初計画）から計画の見直しを図ったことから、見直し前後の両方の値を示している。

調査地域の植生の改変状況は、図 8-1-5-6 に示すとおりである。

なお、重要な群落として挙げたコナラ群落は、動物等の良好な生息・生育環境としても重要であることから、「動物」、「植物」及び「生態系」において各予測対象種の生息・生育環境を保全する観点からその影響を回避・低減することとし、上記のとおり環境保全措置の内容として扱った。

表 8-1-5-17 調査範囲の植生面積、植生の改変面積及び改変率

類型区分	行ラベル	調査地域内の面積 (ha)	計画見直し後		当初計画	
			改変面積 (ha)	改変率 (%)	改変面積 (ha)	改変率 (%)
落葉・常緑 広葉樹林	スダジイ群落	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00
	アカマツ亜高木	0.35	0.13	36.06	0.10	27.27
	コナラ群落	95.76	21.53	22.48	23.43	24.47
	ケヤキ群落	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
	アカマツ植林	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00
	植栽地	5.38	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	102.43	21.65	21.14	23.53	22.97
スギ・ヒノ キ植林	スギ・ヒノキ植林	86.95	7.46	8.58	12.25	14.09
	小計	86.95	7.46	8.58	12.25	14.09
伐採跡地・ 竹林	先駆性木本群落	1.26	0.62	48.87	0.50	39.99
	アカメヤナギ群落	0.04	0.04	100.00	0.04	100.00
	アズマネザサ群落	0.82	0.00	0.00	0.00	0.00
	竹林	4.92	1.40	28.39	1.39	28.25
	ハリエンジュ植林	0.16	0.16	100.00	0.16	100.00
	小計	7.20	2.21	30.68	2.09	29.03
草地	ミゾソバ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	ボントクタデ群落	0.08	0.00	0.00	0.06	71.10
	オオブタクサ群落	0.33	0.33	100.00	0.33	100.00
	ヨモギ群落	0.14	0.14	100.00	0.14	100.00
	セイタカアワダチソウ-クズ群落	1.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	メヒシバ-エノコログサ群落	2.91	0.00	0.00	0.00	0.00
	イヌビエ群落	0.84	0.00	0.00	0.00	0.00
	チガヤ群落	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00
	シナダレスズメガヤ群落	1.30	0.56	42.68	0.53	40.81
	スキセイヤブチ群落	19.93	10.41	52.21	10.55	52.94
	ヨシ群落	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00
	クサヨシ群落	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	オギ群落	0.77	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	28.01	11.43	40.78	11.60	41.42
農耕地	畑地	9.37	0.00	0.00	0.00	0.00
	水田	2.14	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	11.51	0.00	0.00	0.00	0.00
開放水域	ヒシ群落	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00
	開放水域	1.15	0.45	39.58	0.45	39.58
	小計	1.25	0.45	36.43	0.45	36.43
集落・人工 地	人口裸地	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	コンクリート構造物	0.20	0.17	81.45	0.17	81.45
	造成地	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00
	住宅地	12.05	0.00	0.00	0.00	0.00
	墓地	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00
	道路	1.81	0.00	0.00	0.00	0.00
	鉄道	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00
	小計	15.02	0.17	1.11	0.17	1.11
合計		252.36	43.37	17.19	50.10	19.85

注1：表 8-1-5-16 に示した「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした植物種の生育環境を保全する」環境保全措置に伴い、当初計画及び計画見直し後の値を示している。

注2：各数字は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

注3：アカマツ亜高木及びアカマツ植林は針葉樹の群落であるが、全体に占める各面積の割合が0.1%台と小さいこと、植生調査の結果から広葉樹林に類似すると考えられたことから、類型区分としては落葉・常緑広葉樹林として扱った。



注：ヒシが植物における重要な種に該当するため、本図においてヒシ群落は示していない。

凡 例

□ 対象事業実施区域及び関連施設      - - - - - 町村界

○ 調査地域

■ 変更区域      ▨ 変更区域(当初計画)

【植物群落】

■ スダジ群落	■ スキ・ヒノキ植林	■ チガヤ群落	■ 植栽地
■ アカマツ垂高木	■ ハリエシノ植林	■ シタレスノカヤ群落	■ 造成地 等
■ コナラ群落	■ ミゾソバ群落	■ ススキ・セイカカアヲダソウ群落	■ 住宅地 等
■ ケヤキ群落	■ ホントクダ群落	■ ヨシ群落	■ 開放水域
■ 先駆性木本群落	■ オオクサ群落	■ クサヨシ群落	
■ アカメヤナキ群落	■ ヨモギ群落	■ オギ群落	
■ アスマネサ群落	■ セイカカアヲダソウ群落	■ ヒシ群落	
■ 竹林	■ ヒシバーエノコグサ群落	■ 畑地	
■ アカマツ植林	■ イシビエ群落	■ 水田	



1:15,000

0 100 200 300 400 500 m

図 8-1-5-6

調査地域における植生の  
変更状況

(イ) 予測結果

本事業における現地調査で確認された重要な種 20 種を予測対象種とした。

重要な種の特性を踏まえた環境影響要因の選定結果は、表 8-1-5-18 に示すとおりであり、選定された環境影響要因毎に予測を行った。予測結果は、表 8-1-5-19 に示すとおりである。

表 8-1-5-18 環境影響要因の選定(重要な植物)

種名	環境影響要因		
	工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用	
	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	太陽光パネル等の撤去・廃棄
キヨスミヒメワラビ	○	○	○
オシャグジデンド	○	○	○
サンショウモ	○	○	○
フクジュソウ	○	○	○
ツツラフジ	○	○	○
ネコノメソウ	○	○	○
フユザンショウ	○	○	○
オニシバリ	○	○	○
ヒシ	○	○	○
ミゾコウジュ	○	○	○
トウゴクシソバタツナミソウ	○	○	○
ツルカノコソウ	○	○	○
キツネノカミソリ	○	○	○
エビネ	○	○	○
キンラン	○	○	○
ササバギンラン	○	○	○
シュンラン	○	○	○
ムヨウラン	○	○	○
コ克蘭	○	○	○
オオバノトンボソウ	○	○	○

注：表中の「○」は、環境影響要因として選定する項目である。



表 8-1-5-19(1) 予測結果（重要な種：キヨスミヒメワラビ）

種名	キヨスミヒメワラビ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州の各地に分布し、宮城県南部に記録がある。埼玉県では、低山西、低山東、丘陵南にやや希に分布する。</p> <p>【生育環境等】暖地のやや陰湿な林床に生育している常緑性のシダ植物。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつく。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 シダ」(1992年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(2) 予測結果（重要な種：オシャグジデンド）

種名	オシャグジデンド		
選定状況	EN（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】北海道～九州（中央山地）にかけて分布する。埼玉県では、山地帯にごく希に生育する。</p> <p>【生育環境等】湿った樹幹や岩に着生するシダ植物。夏に落葉し、冬緑性。孢子嚢群は裂片の辺縁と中肋の間か、やや中肋寄りにつく。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 シダ」(1992年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(3) 予測結果（重要な種：サンショウモ）

種名	サンショウモ		
選定状況	VU（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） EN（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州、四国（瀬戸内側）、九州（西部）に分布する。埼玉県では、丘陵南、加須・中川低地に極めて希に分布する。</p> <p>【生育環境等】水田に生育する、浮遊性で小型の一年生水生シダ植物。孢子嚢群は水中葉の基部に集まってつき、10月～12月頃に成熟する。成長した植物は切断されて栄養的にも繁殖する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 シダ」(1992年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季調査において、対象事業実施区域外で2箇所合計1000個体及び225m<sup>2</sup>の生育範囲が確認された。</li> <li>・確認環境は、水田であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(4) 予測結果（重要な種：フクジュソウ）

種名	フクジュソウ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】北海道～九州に点々と分布するが、西日本には少ない。埼玉県では、丘陵地～山地帯まで県内に広く分布する。</p> <p>【生育環境等】二次林の林床内に生育する多年草。花期は3月～4月。まわりの樹木の葉や大型の草が茂る5月下旬には、実を結んで活動を終える。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 II 離弁花類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所22個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、低茎草地であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(5) 予測結果（重要な種：ツヅラフジ）

種名	ツヅラフジ		
選定状況	VU（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。埼玉県では、低山帯～丘陵帯に分布する。</p> <p>【生育環境等】落葉性のつる性の木本植物で林縁や林内の他植物などに巻きついて生育する。つるは太くなれば径 3cm にもなる。7 月頃、多少毛のある大型の円錐花序を出し、淡緑色の細かい花を多数つける。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 II 離弁花類」(1982 年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で 1 箇所 1 個体、対象事業実施区域内で 7 箇所合計 276m<sup>2</sup> の生育範囲（変更区域内で 1 箇所 15m<sup>2</sup> の生育範囲）が確認された。</li> <li>・ 確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変更及び施設の存在	地形の変更等により、一部の個体が消失するものの、その変更率（確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合）は 5.15%以下と低く、対象事業実施区域外及び変更区域外に多くの個体が分布するため、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(6) 予測結果（重要な種：ネコノメソウ）

種名	ネコノメソウ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】南千島、北海道、本州に分布する。埼玉県では、荒川西台地～低山帯にかけて広く分布する。</p> <p>【生育環境等】谷戸や川の周辺などの湿り気のある林縁などに生育する、小型で軟弱な多年草。花期は4月～5月、花は径1.5mm～2mmで、がく裂片は花時に直立し、淡黄緑色または淡黄色で長さ1mm位、長円形で円頭。花盤は目立たない。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 II 離弁花類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で23箇所合計6345個体及び161m<sup>2</sup>の生育範囲、対象事業実施区域内で19箇所合計2371個体及び50.15m<sup>2</sup>の生育範囲（改変区域内で8箇所合計468個体及び9m<sup>2</sup>の生育範囲）が確認された。</li> <li>・なお、事業計画の見直し前は改変区域内で10箇所合計768個体及び18m<sup>2</sup>であった。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林、高茎草地、低茎草地及び開放水域（流水）であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変等により、一部の個体が消失する。その改変率（確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合）は個体数で8.15%、生育範囲で4.09%と低いものの、消失する個体数自体が多く、本種の生育環境への影響はやや大きいと予測する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生育環境への影響の回避を図る。この結果、300個体の消失が回避され、改変率は個体数で5.37%まで軽減される。 以上のことから、本種の生育影響への影響は小さいと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(7) 予測結果（重要な種：フユザンショウ）

種名	フユザンショウ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。埼玉県では、丘陵帯～低山帯に分布する。</p> <p>【生育環境等】常緑広葉樹林や二次林の林内に生育する長さ 1.5m～3m の常緑低木。花期は 5 月で、前年の枝にある側芽の先に長さ 1.5cm～3cm の円錐花序を伸ばし、多くの小さな花をつける。雌雄異株。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) 「日本の野生植物 木本 I」(1989 年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で 1 箇所 1 個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(8) 予測結果 (重要な種: オニシバリ)

種名	オニシバリ		
選定状況	EN (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】本州 (関東南部、東海地方南部、近畿北部)、九州の各地を中心に分布し、福島、石川、徳島各県にもわずかに自生する。埼玉県では、丘陵南と低山東に分布する。</p> <p>【生育環境等】落葉樹林内に生育する高さ 1m~1.5m の落葉小低木。7月~8月頃落葉し、8月~9月に枝端から翌春の花とともに新しい葉が現れる。花期は2月~4月で、淡黄緑色の花が2~10集まって束生状となる。はっきりしない雌雄異株。5月~7月、楕円形で長さ約 8mm の液果が赤く熟し、辛く有毒である。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 木本 II」(1989年、平凡社)</p>		
確認状況	<p>・秋季、早春季及び春季調査において、対象事業実施区域内で4箇所合計3個体及び16m<sup>2</sup>の生育範囲(変更区域内で4箇所合計3個体及び16m<sup>2</sup>の生育範囲)が確認された。</p> <p>・確認環境は、広葉樹林及びその低木林であった。</p>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る(※1)。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変等により、確認個体の全て消失するため、本種の生育影響への影響は大きいと予測する。このため、変更区域内の本種の生育環境の一部に保全区域を設け、出来る限り生育環境への影響の回避を図る(※2)。この結果、1個体の消失が回避される。しかしながら、まだ変更率が高いことから、工事着手前に、本種の残りの個体をその保全区域へ移植する。さらに、環境保全措置の効果を検証するための事後調査を実施し、必要に応じて適切な順応的な措置を講じることとする。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

注1: ※1について、地形の改変等により確認個体が全て消失する場合、造成等の施工による一時的な影響の予測は対象にならないが、本種については環境保全措置により変更区域内で個体の保全を図ることから、予測対象とした。

注2: ※2について、本種は「事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させる」環境保全措置においても影響の回避を図ることが困難であったことから、本種の生育環境のうち変更区域内の非パネル設置箇所に保全区域を設けることとした。



表 8-1-5-19(9) 予測結果 (重要な種 : ヒシ)

種名	ヒシ		
選定状況	NT (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】 北海道～九州に分布する。埼玉県では、加須・中川低地～丘陵帯まで分布する。</p> <p>【生育環境等】 池沼、用水に生育する 1 年草。浮水葉は放射状に密生して水面に浮かぶ。花期は 7 月～10 月で、花は径約 1cm で白色。果実を食用とする。</p> <p>参考文献 : 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 II 離弁花類」(1982 年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で 2 箇所合計 0.1ha、対象事業実施区域内で 1 箇所 0.03ha (変更区域内で 1 箇所 0.03ha) の生育が確認された。</li> <li>・ 確認環境は、開放水域 (止水) であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	<p>本種の生育環境には、造成等の施工により濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き、濁水を一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。</p>
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	<p>地形の改変及び施設の存在により、本種の生育環境の一部は調整池として利用されるため消失する可能性があるものの、その改変率 (確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合) は 30.0%と低く、対象事業実施区域外及び改変区域外に多くの個体が分布するため、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>改変区域外の本種の生育環境の一部には、調整池から濁水の流入が考えられる。このため、「濁水については、排水路にて調整池に導き、濁水を一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する」等の措置を講じる。この結果、造成等の施工により流入する濁水の程度は、現況で発生している程度以下になると予測する。</p> <p>以上のことから、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。</p>
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	<p>太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様な環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。</p>

表 8-1-5-19(10) 予測結果 (重要な種 : ミゾコウジュ)

種名	ミゾコウジュ		
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) NT (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】 本州～琉球に広く分布する。埼玉県では、加須・中川低地～低山帯にかけて広く分布する。</p> <p>【生育環境等】 湿った草地や裸地などでかく乱された所に生育する、ロゼット葉のある越年草。花期は5月～6月、花穂ははじめ短い、後に長く伸びて8cm～10cmとなる。花冠は淡紫色で、長さ約5mm。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 III 合弁花類」(1981年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋季、早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で2箇所合計103個体、対象事業実施区域内で13箇所合計2875個体(改変区域内で9箇所合計2575個体)が確認された。</li> <li>・ なお、事業計画の見直し前は改変区域内で10箇所合計2675個体であった。</li> <li>・ 確認環境は、高茎草地及び低茎草地であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変等により、確認個体の多くが消失し改変率(確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合)が89.83%と高いため、本種の生育影響への影響は大きいと予測する。このため、当初の事業計画の見直しにより、出来る限り生育環境への影響の回避を図る。この結果、100個体の消失が回避され、改変率は個体数で86.47%まで軽減される。しかしながら、まだ改変率が高いことから、工事着手前に本種を対象事業実施区域内の影響を受けない生育環境へ移植し、保全区域を設ける。さらに、環境保全措置の効果を検証するための事後調査を実施し、必要に応じて適切な順応的な措置を講じることとする。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(11) 予測結果（重要な種：トウゴクシソバタツナミソウ）

種名	トウゴクシソバタツナミソウ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州（中部～東北地方南部）に分布する。埼玉県では、低山帯～亜高山帯にかけて分布する。</p> <p>【生育環境等】落葉広葉樹林の林床に生育する多年草。ホナガタツナミソウの品種で、茎に開出毛が多くでる。花期は6月～7月。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 III 合弁花類」(1981年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で4箇所合計38個体、対象事業実施区域内で1箇所5個体（変更区域内で1箇所5個体）が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変更及び施設の存在	地形の変更等により、一部の個体が消失するものの、その変更率（確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合）は11.63%と低く、対象事業実施区域外及び変更区域外に多くの個体が分布するため、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の変更はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(12) 予測結果（重要な種：ツルカノコソウ）

種名	ツルカノコソウ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州～九州に分布する。埼玉県では、低地帯～山地帯にまで広く分布する。</p> <p>【生育環境等】やや湿った林内や林縁に生育する多年草。花期は4月～5月で散房花序につく。花冠は漏斗状で長さ2mm内外、白色で時に紅色を帯びる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 III 合弁花類」(1981年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季調査において、対象事業実施区域外で6箇所合計62個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(13) 予測結果（重要な種：キツネノカミソリ）

種名	キツネノカミソリ		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州～九州に分布する。埼玉県では、低地帯～山地帯にかけて分布する。</p> <p>【生育環境等】二次林の林内や林縁等に生育する多年草。葉は春に出て帯状、淡黄色で夏には枯れ、そのあとに高さ 30cm～50cm の花茎が立ち 3～5 の花が散形状につく。花は黄赤色。果実は球形の蒴果で径 1.5cm、よく結実する。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982 年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で 6 箇所合計 62 個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(14) 予測結果 (重要な種: エビネ)

種名	エビネ		
選定状況	NT (環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について) EN (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】 北海道西南部～琉球に分布する。埼玉県では、台地・丘陵帯～低山帯にかけて広く分布するが、個体数は多くない。</p> <p>【生育環境等】 山野の落葉樹林内に生育する地生の多年草。偽球茎は球状。葉は2～3つく。花序は短毛があり、4月～5月にややまばらに8～15の花をつける。花被片は暗褐色。</p> <p>参考文献:「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季調査において、対象事業実施区域内で1箇所3個体が確認された。</li> <li>・ 確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(15) 予測結果（重要な種：キンラン）

種名	キンラン		
選定状況	VU（環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について） EN（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州～九州に分布する。埼玉県では、台地・丘陵帯～山地帯に広く分布する。</p> <p>【生育環境等】落葉樹林の林床に生育する地生の多年草。花期は4月～6月で、黄色の花を3～12つける。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所1個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(16) 予測結果 (重要な種 : ササバギンラン)

種名	ササバギンラン		
選定状況	NT (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】 北海道～九州に分布する。埼玉県では、台地・丘陵帯～山地帯に広く分布する。</p> <p>【生育環境等】 落葉樹林の林床に生育する地生の多年草。花期は5月～6月で、白色の数花をまばらにつける。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で6箇所合計68個体、対象事業実施区域内で1箇所3個体(変更区域内で1箇所3個体)が確認された。</li> <li>・ 確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非変更域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形変化及び施設の存在	地形の改変等により、一部の個体が消失するものの、その改変率(確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合)は4.23%以下と低く、対象事業実施区域外及び変更区域外に多くの個体が分布するため、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。



表 8-1-5-19(17) 予測結果（重要な種：シュンラン）

種名	シュンラン		
選定状況	NT（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】北海道（奥尻島）～九州に分布する。埼玉県では、低地～山地帯まで広く分布する。</p> <p>【生育環境等】乾燥した落葉樹林内に生育する多年草。花期は3月～4月で、淡黄緑色の花を1個頂生するが、まれに2花以上が開花することもある。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<p>・ 秋季、早春季、春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で35箇所合計227個体、対象事業実施区域内で27箇所合計190個体（改変区域内で13箇所合計96個体）が確認された。</p> <p>・ 確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</p>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	地形の改変等により、一部の個体が消失するものの、その改変率（確認個体数又は範囲に占める消失する個体数又は範囲の割合）は23.02%と低く、対象事業実施区域外及び改変区域外に多くの個体が分布するため、本種の生育環境への影響は小さいと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(18) 予測結果（重要な種：ムヨウラン）

種名	ムヨウラン		
選定状況	DD（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編）		
一般生態	<p>【分布】本州（東北地方南部以南）、四国、九州に分布する。埼玉県では、丘陵地帯～台地にかけて分布する。</p> <p>【生育環境等】低地～丘陵地の暖温帯の常緑樹林下に生育する地生の無葉緑腐生植物。花期は5月～6月で、花は数個つき、長さ約2cm、筒状で平開しない。花は淡黄色で、花茎ははじめ汚白色、後に黄褐色に変わる。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季調査において、対象事業実施区域外で1箇所4個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19(19) 予測結果（重要な種：コクラン）

種名	コクラン		
選定状況	EN（埼玉県レッドデータブック 2011 植物編） 希少野生動植物種（埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例）		
一般生態	<p>【分布】本州（茨城県以南）～九州に分布する。埼玉県では、丘陵帯の林内に分布する。</p> <p>【生育環境等】常緑樹林の林床に生育する多年草。偽球茎は多肉質で、前年の偽球茎が新しいものと並立する。花期は6月～7月で、暗紫色の花を5～10、まばらに総状につける。</p> <p>参考文献：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」(1982年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で4箇所合計38個体、対象事業実施区域内で1箇所9個体が確認された。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林及び針葉樹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

表 8-1-5-19 (20) 予測結果 (重要な種 : オオバノトンボソウ)

種名	オオバノトンボソウ		
選定状況	NT (埼玉県レッドデータブック 2011 植物編)		
一般生態	<p>【分布】 本州～九州に分布する。埼玉県では、台地～山地帯まで広く分布する。</p> <p>【生育環境等】 主に丘陵地の疎林内に生育する地生の多年草。花期は 6 月～7 月で、黄緑色の 10～25 の花が穂状につく。</p> <p>参考文献 : 「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」 (2011 年、埼玉県) 「日本の野生植物 草本 I 単子葉類」 (1982 年、平凡社)</p>		
確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春季調査において、対象事業実施区域外で 2 箇所合計 21 個体、対象事業実施区域内で 3 箇所 21 個体が確認された。</li> <li>・ 確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び竹林であった。</li> </ul>		
予測結果	工事の実施	造成等の施工による一時的な影響	造成等の施工による一時的な影響はほとんどないと考えられるが、「非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める」等の措置を講じることにより、本種の生育環境への更なる影響の低減を図る。
	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変及び施設の存在	改変区域外に生育しており、生育環境及び生育状況に変化が生じないため、地形の改変等による影響はないと予測する。
		太陽光パネル等の撤去・廃棄	太陽光パネル等の撤去・廃棄により、工事の実施時と同様な影響が生じると考えられる。しかしながら、工事の実施時以上の地形の改変はされないこと、作業規模が工事の実施時よりも小さいこと、工事の実施時と同様の環境保全措置を講じることから、その影響は工事の実施時よりも小さいと予測する。なお、太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努めることにより、本種を含む植物の生育環境は現況程度まで回復すると予測する。

(オ) 評価の結果

7) 環境影響の回避、低減に係る評価

造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在及び太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響を低減するための環境保全措置は、表 8-1-5-20 に示すとおりである。

これらの環境保全措置を講じることにより、工事用資材等の搬出入、建設機械の稼働、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在及び太陽光パネル等の撤去・廃棄における重要な種への影響は小さいものと考えられることから、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているものと評価する。

なお、オニシバリ及びミゾコウジュについては、環境保全措置の効果を検証するための事後調査を実施し、必要に応じて適切な順応的な措置を講じることとする。また、本事業による影響は小さいと予測するものの、本事業の類似事例等を踏まえた上で、以下の観点から予測評価の妥当性を検証する事後調査を実施することとする。

- ・ 保全措置として消滅した分のどの程度までを緑化や植樹で代償できるのか、生態的にどこまで代償効果があるのかについて確認する事後調査。

表 8-1-5-20 植物に係る環境保全措置

環境影響要因		環境保全措置の内容
工事の実施	・ 造成等の施工による一時的な影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。</li> <li>・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む造成箇所について、地域の生態系に配慮した早期緑化を行い、植生の早期回復に努める。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> <li>・ 造成箇所は、速やかに転圧等を施す。</li> <li>・ 改変区域内の非パネル設置箇所にオニシバリを対象とした保全区域を設ける。</li> <li>・ 工事着手前に、オニシバリ及びミゾコウジュを、対象事業実施区域内の影響を受けない生育環境へ移植し、保全区域を設ける。</li> </ul>
土地又は工作物の存在及び供用	・ 地形の改変及び施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業計画を見直し、対象事業実施区域内の樹林等の一部を残存させることにより、重要な種をはじめとした植物種の生育環境を保全する。</li> <li>・ 低反射型太陽光パネルを採用することや周辺に緑地を配置することにより、反射光による局地的な温度の上昇や光害等の影響を抑制する。</li> <li>・ 太陽光パネルの設置箇所下部を含む緑化箇所は定期的に草刈りを実施して適切に管理することで緑地環境を維持する。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> </ul>
	・ 太陽光パネル等の撤去・廃棄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非改変区域への立ち入りを制限し、作業員等による人為的圧力を最小限に留める。</li> <li>・ 濁水については、排水路にて調整池に導き一旦貯留し、土粒子を十分に沈殿させたのち、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。</li> <li>・ 調整池は、十分な沈砂機能の維持のため、定期的な確認を実施し、適宜浚渫を行う。</li> <li>・ 太陽光パネルの撤去箇所は、可能な限り在来種の樹木等による緑化を行い、樹林植生の早期回復に努める。</li> </ul>